

# 「けいさんかみしばい」で問題作り名人になろう

単 元	ひきざん（２）	対象学年	1 年
ね ら い	紙芝居づくりを通して、計算のお話をつくることに興味や関心を持ち、たし算・ひき算が適用できる場面の理解を深めることができるようにする。		

## 1 準備するもの

教師： パソコン（指導用デジタル教科書「わくわくさんすう 1ねんせい」）、画用紙、  
児童： 色鉛筆

## 2 学習のしかた

- (1) テレビの画面に映し出された場面絵を見ながら話の続きを考える。出てきた数字やたしざんになる言葉を拾いながら式を立てる。（ひきざんの例も挙げる。）
- (2) 「けいさんかみしばい」の作り方を知らせる。
  - ①たし算の式を考える。
  - ②1・2枚目には数が分かるようにお話をかく。
  - ③最後の1枚（3枚目）に、答えを尋ねるお話をかく。
  - ④お話に合った絵をかく。
- (3) 紙芝居を作り、発表し合う。

## 3 学習上の留意点

- ・場面絵を見て、 $3 + 2 = 5$ や $5 - 3 = 2$ の式になる話を作り、以前の学習を想起させ、紙芝居づくりへの見通しを持たせる。
- ・問題を作る時のヒントとなるように、たし算になることば、ひき算になることばを提示する。

〈例〉たし算のことばの例：ふえると、もらうと、のると、ぜんぶで、みんなで など  
ひき算のことばの例：かえると、たべると、あげると、のこりは、ちがいは など

- ・言葉が足りない子どもに対しては、個別に声を掛け、一緒に問題を読み返し、単位や演算決定の言葉などをおさえられるようにする。
- ・発表の前に、まずは隣の席の友達に読んで聞かせ、解いてもらうことで、より良い表現の仕方をアドバイスしてもらえると同時に、自信をもって発表することができるようにする。

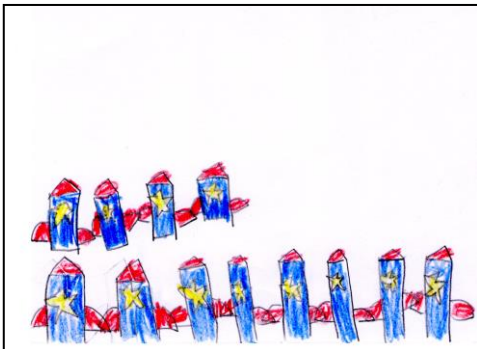
## 4 学習の効果

- ・増える言葉と減る言葉を子どもたちに理解させておくと、問題作りがスムーズに行うことができる。普段問題を解く段階から、文章内に使われている言葉に着目するようにしているため、「何から書いたらいいかわからない」「どんな言葉を使ったらいいかわからない」ということなく、それぞれ問題作りに取り組むことができた。
- ・問題を作る過程において、はじめは、「ふえると」「へると」「ちがいは」のような言葉を

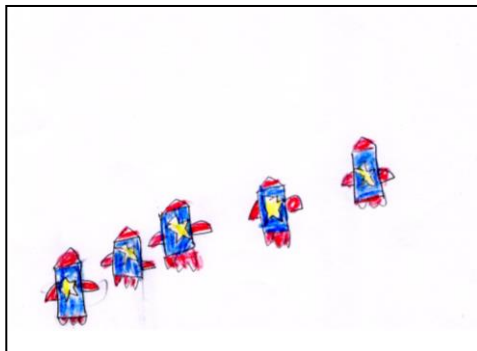
多用していたが、慣れていくに従い、「来ると」「もらうと」「あげると」「食べると」のような場面に即した言葉を使うことができるようになった。また、ひき算の問題を作る場面においても、「あげると」「食べると」のような簡単な言葉を使う児童だけではなく、「どちらがいくつおおい」「〇〇の方がいくつおおい」というような求差の言葉を使って紙芝居を作る児童も出てくるようになり、いろいろな種類の問題をお互いに解きあうことができた。

- ・算数があまり好きでない児童でも、進んで問題作りに取り組み、楽しそうに友達の作った問題を解いたり、自分の作った問題を発表したりする姿が見られた。

## 5 参考資料 (児童の作品から)

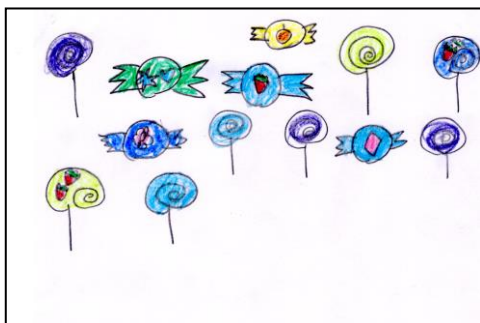


ロケットが12だいありました。



5だいとんでいっちゃいました。

のこりはなんだいですか。



あめが13こありました。



6こたべました。

のこりは、なんこあるでしょう。